地質学雑誌　第123巻　第6号（通巻1461号）付録　平成29年6月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.20 No.6 June 2017

日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）

～ようおいでたなもし，四国地質お遍路の旅へ～

2017年 9月16日（土）～18日（月）

会場：愛媛大学城北キャンパス

講演申込・要旨投稿締切　7月5日（水）18時

（郵送の場合　6月29日（木）必着）

講演申込WEB画面入力時の注意

（1）まずは愛媛大会演題登録専用の「アカウント登録」を行いましょう．
“仮登録→本登録”の操作が必要です．

1つのアカウントで複数の演題登録が可能です．　WEB画面上でアカウント登録（仮登録）後，登録したメールアドレス宛に“メールアドレス本登録のお願い”という自動返信メールが配信されます．このメール中に表記されているURLをクリックし，**本登録を完了させてください．**ここまでの操作を行えば，任意で登録した〔ログインID〕と〔パスワード〕でログイン（演題登録）できるようになります．

（2）修正する場合

〔ログインID〕と〔パスワード〕でログインします．締切まで何度でも入力情報の修正ができます．講演要旨を差替える際は，一度アップロードしたファイルを削除してから，新しいファイルをアップロードして下さい．

※画面操作に慣れていないと，タイムアウトする可能性が高く，締切直前での登録は入力ミスも多くなります．余裕をもってご登録下さい．

事前参加登録締切　8月21日（月）18時

（郵送・FAXの場合　8月14日（月）必着）

＊今年は巡検のお申込も同一の締切となっています．

お申し込みは，大会 HP から

https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp124/top

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

日本地質学会*News*

Vol.20 No.6 June 2017

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

愛媛大会に参加する学生・院生の皆さんへ：宿泊希望者募集のお知らせ［学生・院生限定］……2

表紙紹介 ……2
第8回惑星地球フォトコンテスト：最優秀賞「毘沙門海岸の奇岩」

案内 ……3
第10回HOPEミーティング ―ノーベル賞受賞者との５日間―参加募集／第7回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

公募 ……3
東北大学大学院理学研究科地学専攻准教授公募（募集分野：生命起源地球科学）／東北大学大学院 理学研究科地学専攻准教授公募（募集分野：火山物質科学）／東北大学大学院理学研究科地学専攻講師公募（募集分野：隕石学，惑星科学）／弘前大学教育研究院自然科学系安全システム工学領域岩石・鉱物学分野教授公募

各賞・助成 ……4
平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦／平成29年度（第58回）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦／ 2017年度「第38回猿橋賞」募集

紹介 ……5
深読み! 絵本『せいめいのれきし』真鍋　真（矢島道子）

博物館だより ……6
神奈川県立生命の星・地球博物館：2017年度特別展　地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～／福井県立恐竜博物館：特別展恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～

CALENDAR ……7

TOPIC ……8
トリビア学史9　1893（明治26）年吾妻山爆発にともなう地質学者の殉難（矢島道子）

地質の行事報告 ……9
街中ジオ散歩in Tokyo「国分寺崖線と玉川上水」

地学教育のページ ……10
小さなEarth Scientistのつどい～第15回小，中，高生徒「地学研究」発表会～参加校募集

支部コーナー ……11
関東支部：地質技術伝承講演会および2016年度関東支部総会報告

院生コーナー ……12
ゴンドワナからアジア国際シンポジウム参加報告（小泉達也・高村悠介・高橋一輝）

出版物在庫案内 ……14

巻末　入会申込書

2017年度会費およびそれ以前の未納会費がある方へ

6月中旬に督促請求書（郵便振替用紙）を郵送しました．
早急にご送金くださいますようお願いいたします．
7月上旬頃までに入金確認が取れない場合には，7月号の雑誌から発送停止となります．定期的に雑誌をお受け取りになりたい方は，お早めにご送金ください．

事務局営業カレンダー　お休み

6月 June

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月 July

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

宿泊希望者募集のお知らせ［学生・院生限定］

これまでお知らせの通り，松山市内では地質学会同期間中に医学系などの他学会，10月のえひめ国体の事前行事の開催が予定されており，既に宿泊予約が大変混み合っています．そのため学会では，旅行社を通じて宿泊施設の確保を進め，学会専用の宿泊予約サイト（大会WEBサイト参照）を用意するなど対処していますが，これに加えて，学生・院生限定で下記の通り，宿泊希望者を募集します．

対象：愛媛大会に参加する地質学会会員の学生・院生（男女問わず）
宿泊先：松山市内のホテル等（複数の宿泊施設を確保しています．いずれも愛媛大学まで徒歩圏内）
部屋タイプ例：
・大部屋ドミトリー（24名大部屋，2段ベット，布団付）
・和室10人部屋（布団付）
・和室3人部屋（布団付）
・洋室（シングル）
・洋室（ツイン）
宿泊可能日・人数（名）：9月15日（金）～18日（月）各日とも52名

15日（金）	16日（土）	17日（日）	18日（月）
52	52	52	52

料金：素泊 2,000 ～ 3,000円/泊 程度（宿泊施設，部屋タイプにより料金は異なります）
申込受付期間：7月11日（火）10時～7月18日（火）17時（先着順）
宿泊の確定・支払方法：申込締切後，宿泊可否の通知をお送りします．宿泊確定者には宿泊施設の情報と費用および支払方法をお知らせします．

注意事項：
1）洋室（シングル）以外は，すべて相部屋となります．
2）宿泊施設，部屋タイプの選択はできません．申込順によって男女別に順次割り振ります．

［その他の宿泊情報］
この他にも，近隣で下記のような宿泊施設もあります（学会専用申込サイトには掲載されていません．学生限定ではありません）．これらの施設に対しては，学会では仲介・斡旋は行っておりませんので，直接ホテルに電話で空き状況を確認して下さい．
・ホテル泰平（松山市平和通3-1-15）
電話：089-943-5000　料金：シングル4,400円より
http://www.hoteltaihei.co.jp/
・ホテル泰平別館（松山市平和通3-1-34）
電話：089-921-3515　料金：シングル3,960円より
http://www.hoteltaihei.co.jp/bekkan/
・ビジネスホテルレインボー（松山市枝松6-10-6）（全28室）
電話：089-947-5400　料金：シングル3,670円より
http://hotelrainbow.info/
・フリーデイズ イン 横河原（東温市横河原189）（全12室）
電話：089-990-1177　料金：シングル5,000円より
http://www.freedays.jp/yokogawara/

申込は大会WEBサイトの専用フォームからお申し込み下さい．
URL://https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp124/top

表紙紹介

第８回惑星地球フォトコンテスト：最優秀賞「毘沙門海岸の奇岩」

写真：**田中健以**（神奈川県）

【撮影場所】神奈川県三浦市南下浦町，毘沙門海岸
【撮影者より】 自然が創りあげたとは思えない奇妙な外観に美しさを感じ，撮影しました．泡のようにも見える白い部分は濡れると黒くなります．撮影日前後は雨もなく，乾燥した日が続いたため，海の塩が表面に浮き出ていたのでしょうか？下の方には赤い部分もあり，色の組み合わせがとても魅力的に感じました．
【審査委員長講評】 作者は地元の方で，この海岸をよく歩かれているのでしょう．普通の人が見過ごしがちな奇岩を注意深く撮影しています．この作品では HDR（High Dynamic Range imaging）という処理を使っています．夕方に西向きに撮影しているので影になっている奇岩を，この処理によって浮き出さしています．ゴミや草などが全くなく（掃除をしたのでしょうか）画面がよく整理され，まさにジオが主役の力強い作品になっています．背景の城島や雲も良いアクセントになっています．（白尾元理）
【地質的背景】 三浦半島南部の海岸には完新世の離水波食棚（波の浸食によってできた平らな棚状の地形）が広がり，地層の観察に適しています．写真の地層は泥岩とスコリア凝灰岩の互層からなる中新—鮮新統の三浦層群三崎層です．黒色のスコリア凝灰岩は伊豆・小笠原弧由来と考えられ，写真では吹き付けられた波しぶきから析出した塩が白く見えています．三崎層には断層による地層の繰り返しや注入構造，スランプ構造などが観察され，フィリピン海プレートの沈み込みによってつくられた付加体堆積物として注目されています．（柴田健一郎：横須賀市自然・人文博物館）

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第10回HOPEミーティング —ノーベル賞受賞者との5日間— 参加募集

HOPEミーティングは，アジア・太平洋・アフリカ地域から選抜された優秀な大学院生等を対象として，ノーベル賞受賞者などの世界の知のフロンティアを開拓した人々との対話，同世代の研究者との交流，さらには人文社会分野の講演や芸術プログラムを通じて，科学者としてより広い教養の涵養と人間性の陶冶を図り，彼らが将来のアジア・太平洋・アフリカ地域等の科学研究を担う研究者として飛躍する機会を提供する５日間の合宿形式の国際会議です．

会議期間：2018年3月11日（日）～ 15日（木）
○3月10日（土）：受付及びオリエンテーション
○3月11日（日）：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2018に参加
開催地：横浜（予定）
主催：独立行政法人日本学術振興会
対象：博士課程（後期）学生／若手研究者（学位取得後5年未満）
申請締切：8月7日（月）本会必着
使用言語：英語

HOPEミーティングホームページ：
http://www.jsps.go.jp/hope/index.html

第10回HOPEミーティング概要：
http://www.jsps.go.jp/hope/gaiyou10.html

第7回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

（日本地質学会・日本応用団体地質学会・地学団体研究会・国際ゴンドワナ研究連合・ネパール地質学会・ネパール地すべり学会推薦）
期間：2018年3月上旬，日本発着約16日間
申込締切：2017年11月末日

造山帯の真髄をヒマラヤで勉強する！

ヒマラヤ地学や野外地質学に造詣の深い日本とネパールの大学教員，元教員や技術者ら（34人が指導・引率者として登録）がボランティアで，日本の学生に素晴らしいヒマラヤの地学と自然環境を実地で実習指導します．航空運賃，宿泊費，食費，車のチャーター，現地ガイドやポーターの雇用等の必要経費一切込みで参加費学生1人20万円以内（過去6回の平均は162000円），実施主体の利益なし完全ボランティアのプログラムです．詳細は本プロジェクトのホームページ（下記URL）でお確かめ下さい．
http://www.geocities.jp/gondwanainst/geotours/Studentfieldex_index.htm

日本の17大学の地学関係教室・学科では，参加学生に対して実習単位の付与が可能になり，或いはその方向を検討中です．

本実習ツアーの第1回目は2012年3月に実施され，以後毎年3月に実施されています．実施報告は日本地質学会ＮＥＷＳ（20巻4号など）や上記ホームページのリンクからご覧頂けます．ホームページでは，過去６回のツアー参加者の報告文を含む詳しい報告書（E-book）６冊も閲覧（無料）頂けます．

なお，本実習ツアーには中・高校教員，関係分野企業の新人社員，自然嗜好の市民等も歓迎です．プラス5万円でご参加いただけます．このプラス分で学生参加費軽減に一役買って頂くことになります．

参加ご希望，あるいはご興味の方は下記プロジェクト世話人代表までご連絡下さい．

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト
世話人会：吉田勝（代表），在田一則，酒井哲弥，B.N.ウプレティ
E-mail: gondwana@oregano.ocn.ne.jp
Tel/Fax: 0736-36-7789

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

東北大学大学院理学研究科地学専攻准教授公募（募集分野：生命起源地球科学）

所属：東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学講座
職名および人員：准教授１名
募集分野：生命起源地球科学．生命起源に関する実験的研究が行える方．地学専攻が実施している，国際共同大学院（環境・地球科学）・JSPS日独共同大学院，およびリーディング大学院（グローバル安全学トップリーダー育成プログラム）等の博士学位プログラムや，東北大学が推進する諸事業に積極的に尽力いただける方が望ましい．
応募資格：博士の学位を有する者
担当科目：東北大学全学教育と理学部地球惑星物質科学科・地学専攻の講義や演習・実習など．
着任予定：平成29年10月1日 以降の出来るだけ早い時期
応募締切日：平成29年7月14日（金）必着
提出書類：(1) 履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）(2) 研究業績リスト (3) 主要論文5編の別刷り各１部（コピー可）(4) 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト (5) これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）(6) 着任後の研究・教育に関する抱負（2000字程度）(7) 照会可能な方2名の氏名と連絡先
書類提出先：〒980-8578
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室宛
問い合わせ先：東北大学大学院理学研究科地学専攻　専攻長　掛川　武
電　話022-795-6600，FAX 022-795-6675，
e-mail：kakegawa@m.tohoku.ac.jp
http://www.sci.tohoku.ac.jp/recruit/post-260.html

東北大学大学院 理学研究科地学専攻准教授公募（募集分野：火山物質科学）

所属：東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学講座
職名および人員：准教授１名
募集分野：火山物質科学．地学専攻の教員と協力し，物質科学的手法を用いて火山学の最先端の研究を行っていただける方．地学専攻が実施している，国際共同大学院（環境・地球科学）・JSPS日独共同大学院，及びリーディング大学院（グローバル安全学トップリーダー育成プログラム）等の博士学位プログラムや，東北大学が推進する諸事業に積極的に関わっていただける方．教育関係の諸業務に積極的に尽力いただける方が望ましい．
応募資格：博士の学位を有する者
担当科目：東北大学全学教育と理学部地球惑星物質科学科・地学専攻の講義や演習・実習など．
着任予定：平成29年10月1日 以降の出来るだけ早い時期
応募締切日：平成29年7月14日（金）必着
提出書類：(1) 履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）(2) 研究業績リスト (3) 主要論文5編の別刷り各１部（コピー可）(4) 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト (5) これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）(6) 着任後の研究・教育に関する抱負（2000字程度）(7) 照会可能な方2名の氏名と連絡先
書類提出先：〒980-8578
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室宛
問い合わせ先：東北大学大学院理学研究科地学専攻，教授　中村美千彦
電　話022-795-7762，e-mail：nakamm@m.tohoku.ac.jp

http://www.sci.tohoku.ac.jp/recruit/post-270.html

東北大学大学院理学研究科地学専攻講師公募（募集分野：隕石学，惑星科学）

所属：東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学講座
職名および人員：講師１名
募集分野：隕石学，惑星科学：太陽系の原始惑星系円盤における固体微粒子形成過程，微惑星における物質進化過程などの物質科学的，または実験的研究（太陽系探査機リターンサンプルの研究を含む）が行える方．地学専攻が実施している，国際共同大学院（環境・地球科学）・JSPS日独共同大学院，およびリーディング大学院（グローバル安全学トップリーダー育成プログラム）等の博士学位プログラムや，東北大学が推進する諸事業に積極的に尽力いただける方が望ましい．
応募資格：博士の学位を有する者
担当科目：東北大学全学教育と理学部地球惑星物質科学科・地学専攻の講義や演習・実習など．
着任予定：平成29年10月1日 以降の出来るだけ早い時期
応募締切日：平成29年7月14日（金）必着
提出書類：(1) 履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）(2) 研究業績リスト (3) 主要論文5編の別刷り各１部（コピー可）(4) 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト (5) これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）(6) 着任後の研究・教育に関する抱負（2000字程度）(7) 照会可能な方2名の氏名と連絡先
書類提出先：〒980-8578
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室宛
問い合わせ先：東北大学大学院理学研究科地学専攻，教授　中村智樹
電　話022-795-6651，FAX 022-795-6651，
e-mail：tomoki@m.tohoku.ac.jp
http://www.sci.tohoku.ac.jp/recruit/post-280.html

弘前大学教育研究院自然科学系安全システム工学領域岩石・鉱物学分野教授公募

募集人員：教授1名（任期なし）
所 属：自然科学系安全システム工学領域
専任担当：理工学研究科（地球環境防災学科併任）
専門分野：岩石・鉱物学，地球化学
担当科目：
理工学部：岩石・鉱物学㈱，岩石・鉱物学㈱，地質調査法実習，基礎化学実験，地質学演習，応用地質学実習，岩石・鉱物学実験，自然災害学概論，全教員担当の必修科目など
大学院理工学研究科：専門分野に関連した科目，研究指導に関連した科目など
教養教育科目：スタディスキル導入科目，その他の科目群など
応募資格：(1) 博士の学位を有する者 (2) 大学院博士課程前期・後期課程において主指導教員として教育研究指導ができる者
着任時期：平成30年4月1日以降のできるだけ早い時期
応募期限：平成29年8月18日（金）消印有効
問い合わせ先：
〒036-8561　青森県弘前市文京町３番地
弘前大学大学院理工学研究科　総務グループ（総務担当）
電　話：(0172) 39-3503，FAX：(0172) 39-3513，
E-mail：jm3505@hirosaki-u.ac.jp

応募書類等詳細は，http://www.hirosaki-u.ac.jp/14650.html

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内いたします．

平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦

1. 表彰内容
(1) 科学技術賞
1) 開発部門：我が国の社会経済，国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって，現に利活用されているもの（今後利活用されることが期待できるものを含む）を行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
2) 研究部門：我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った個人又はグループ
3) 科学技術振興部門：大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出，地域における産学官連携，研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において，科学技術の振興に寄与する活動を行い，顕著な功績があったと認められる個人又はグループ
4) 技術部門：中小企業，地場産業等において，地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
5) 理解増進部門：青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し，又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ
(2) 若手科学者賞
萌芽的な研究，独創的視点に立った研究等，高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人

2. 受賞候補者の推薦について
本表彰は，文部科学省研究振興局長が**推薦依頼を発出した機関（以下，推薦機関）からの推薦のみ受け付け**ています．なお，科学技術賞研究部門及び若手科学者賞については，日本国籍を有し海外を拠点に研究活動を行っている者の個人推薦を受け付けております．

3. 推薦締切
平成29年7月26日（水）（学会締切：7月14日（金））

4. 書類送付先
〒100-8959　東京都千代田区霞が関3-2-2
文部科学省研究振興局振興企画課奨励室
電 話 番 号：03-5253-4111，03-6734-4071（直通）
メールアドレス：sinsyore@mext.go.jp
詳しくは，http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/index.htm

平成29年度（第58回）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

1．東レ科学技術賞
候補者の対象：(1) 学術上の業績が顕著な方 (2) 学術上重要な発見をした方 (3) 効果が大きい重要な発明をした方 (4) 技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献した方
科学技術賞：1件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円（2件以内）
締切：平成29年10月10日（火）必着（学会締切：8月31日）

2．東レ科学技術研究助成
候補者の対象：国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的研究に従事しており，かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）．本助成が重要な研究費と位置づけられ，これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件．
申請の基となった研究が海外で行われていても差し支えありません．
研究助成金：総額1億3千万円．1件3千万円程度まで10件程度とします．
締切：平成29年10月10日（火）必着（学会締切：8月31日）
＊推薦をご希望の方は，上記学会締切までに

執行理事会宛に応募書類をお送り下さい．
＊各推薦書要旨は，ホームページからもダウンロードできます．
http://www.toray-sf.or.jp

問い合わせ先
公益財団法人東レ科学振興会
〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町3丁目3番16号（日本橋室町ビル7階）
Tel：(03) 6262-1655　Fax：(03) 6262-1901

2017年度「第38回猿橋賞」募集

「女性科学者に明るい未来をの会」は，「女性科学者のおかれている状況が必ずしも望ましくない中で，一条の光を投じ，いくらかでも彼女らを励まし，自然科学の発展に貢献できるように支援する」という願いをこめ，1980年に創立されました．この創立の趣旨を継承し，当会は，毎年，自然科学の分野で顕著な業績を収めた女性科学者に賞（猿橋賞）を贈呈しています．

対象：本賞は創立の趣旨に沿って，自然科学の分野で優れた研究業績を収めている女性科学者（ただし，日本に在住・在職で，かつ今後も国内で若手の育成に貢献でき，下記の推薦締切日で50才未満の人）に贈呈します．
賞：賞状，副賞として賞金（30万円）
締切：2017年11月30日（必着）
（注）学会からの推薦を希望する場合は，10月30日（月）までに必要書類を整えて，学会事務局までお申し出下さい．
応募書類，応募方法など詳細は，http://www.saruhashi.net/

紹　介

深読み! 絵本『せいめいのれきし』（岩波科学ライブラリー 260）

真鍋　真 著

岩波書店，2017年4月13日発行，114ページ，ISBN-13: 978-4000296601，定価1620円（税込）

子どもの頃，『ちいさいおうち』という絵本が大好きだった．今，ビルの谷間に住んでいると，絵本にあるようにトレーラーにおうちを載せて引っ越ししたくなってくる．『ちいさいおうち』の作者と『せいめいのれきし』の作者が同一のバートンであることをこのたび，初めて知った．なるほど，『せいめいのれきし』は絵描きの書いた絵本だったのだ．

本書はその『せいめいのれきし』に現代の古生物学の知識を導き入れたものである．本書を読みながら，むずかしい仕事をよくやられたと感心した．絵本は絵のみならず，文も素晴らしくなくてはいけない．絵本の文は石井桃子の名訳である．絵と文のよさを殺さずに，知識を入れるのは至難の業である．

至難の業がなぜできたか，それは『せいめいのれきし』を著者が大好きだったからだと思う．著者だけでなく，あとがきに『せいめいのれきし』が大好きで科学の道に進んだ科学者が紹介されている．発生生物学者，地質学者，天文学者，枚挙にいとまが無い．どうやら編集の人たちも，『せいめいのれきし』が大好きのようだ．大好きな人々が集まって本書ができたのだろう．

現代の知識の導き入れは，かなり平易になされている．今，地質学や古生物学がどんなところに到達しているかがよくわかる．原著は1962年発行だから，バートンの時代よりは，現代の学問はだいぶ進んだようだが，バートンの記述がそんなに古臭くない．きっとバートンの卓見のおかげだろう．著者は生粋の恐竜学者だから，恐竜の現代的記述では腕がなっている．写真や図も豊富に取り入れられ，また，ちょっと難しい学術用語や豆知識は「ひとこと」で紹介されている．研究が進んで変わったことは，5つのコラムの中で解説が加えられている．コラム1は本書の成立の経緯，コラム2はバートンの紹介，コラム3は化石のでき方，コラム4は地層の堆積の様子が世界一残っている水月湖の紹介，コラム5はメアリー・アニングをはじめとする女性化石学者の紹介で，著者はもっと女性古生物学者の活躍を期待していると述べている．

本書で1番面白いところは，バートンの絵本にところどころスポットライトをあてて，紹介しているところである．バートンは何も文を入れずに，随所にいろいろな主張を入れているので，著者はそれを紹介したいらしい．著者はきっと，ぼろぼろになるまで絵本を読んで，全部覚えているのだろう．バートンの蘊蓄をいろいろと紹介してくれている．博物館最上部で激論を戦わしたり，足を机の上にあげて本を読んだりする研究者の生態の紹介がある．『せいめいのれきし』は5幕の舞台と設定されているのだが，舞台回しは，舞台袖にいる，天文学者，虫眼鏡やハンマーをもった地質学者，古生物学者，おばあさん，そしてバートンである．バートンはスケッチをしたり，飛び跳ねたり，いろいろなところに現れる．これらの指摘は，まさに，文字通りの深読みである．

「ひとは人生に3回動物園に行く」と言われることがある．まず，自分が子どもの時，子どもができた時に子どもといっしょに，そして孫ができた時に孫といっしょにということだ．でも，ほんとうは，ひとはいくつになっても動物園はおもしろいと思っている．でもちょっと照れ隠しに子どもや孫を連れて行くのだ．本書も同じだ．いくつになっても面白いものは面白い．照れないで，本書を楽しんで読んでほしい．

文　献

バージニア・リー・バートン，1964，1965，いしいももこ（訳）『ちいさいおうち』岩波書店．

（矢島道子）

博物館だより

神奈川県立生命の星・地球博物館

特別展
地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～

地層には，いつ，どんな場所でできたのかという“時”や“場所”，地震や火山といった“事件”が記録されています．その地層を，崖から直接はぎ取って保存したのが「地層はぎ取り標本」です．

この特別展では，博物館がこれまで集めてきた多数の「地層はぎ取り標本」を展示して“大地の記憶”を読み解きます．地層そのものの持つ繊細な模様の美しさや，多種多様な地層の奥深さもお楽しみください．

主催：神奈川県立生命の星・地球博物館
後援：神奈川新聞社，tvk（テレビ神奈川），日本地質学会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本ペドロジー学会，箱根ジオパーク推進協議会
協力：農研機構・農業環境変動研究センター

会期：**2017年7月15日（土）～11月5日（日）**
休館日：9/4（月），9/11（月），9/12（火），9/19（火），9/25（月），10/2（月），10/10（火），10/11（水），10/16（月），10/23（月），10/30（月）
時間：9:00 ～ 16:30（入館は16:00まで）
場所：神奈川県立生命の星・地球博物館１階特別展示室

観覧料（常設展を含む）：20歳以上（学生を除く）720円，20歳未満・学生 400円，高校生・65歳以上 200円，中学生以下無料）

問い合わせ：
神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031
神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515（代表）
FAX：0465-23-8846
http://nh.kanagawa-museum.jp

福井県立恐竜博物館

特別展
恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～

オヴィラプトロサウルス類のふ化前の胚化石「ベイビー・ルイ」をはじめ日本初公開となる13点の骨格化石や，山口県下関市で見つかった国内初の種類の卵化石などを展示し，恐竜がどのように子孫を増やし繁栄し続けたかという謎を解き明かします．
期間：2017年7月14日（金）～ 10月15日（日）（ただし，9月13日（水），27日（水），10月11日（水）は休館）
開館時間：下記以外　9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）
7月15日（土）～ 8月31日（木），9月16日（土）～ 18日（月・祝），10月7日（土）～ 9日（月・祝）8:30 ～ 18:00（入館は17:30まで）
場所：福井県恐竜博物館3階　特別展示室
特別展観覧料：一般 1,200円，高校・大学生 800円，小・中学生 600円，70歳以上の方 500円（上記料金で常設展もご覧いただけます）

［関連イベント］博物館セミナー「恐竜の卵と巣のなぞ」
日時：7月16日（日）13:00 ～ 14:30
講師：福井県立恐竜博物館　今井拓哉研究員

場所：福井県恐竜博物館３階　講堂
内容：恐竜たちは，より多くの子孫を残し繁栄するために，様々な方法を身につけました．このセミナーでは，2017年度特別展のテーマである，恐竜の卵や巣に関する“なぞ”を取り上げ，最新の研究成果をもとに，恐竜たちの子孫を残す工夫に迫ります．
事前申込みが必要です．詳しくは恐竜博物館ホームページをご覧ください．
担当者による展示解説
日時：7月17日（月・祝），8月20日（日），9月16日（土），10月9日（月・祝）（計４回）13:00 ～ 14:00
聴講には特別展観覧券が必要．事前申込みが必要です．詳しくは恐竜博物館ホームページをご覧ください．
問い合わせ先：
福井県立恐竜博物館
〒911-8601　福井県勝山市村岡町寺尾51-11
Tel: 0779-88-0001（代表）
http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/

CALENDAR

2017. 6 ～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2017年

6月　June

○西太平洋堆積学会議2017
6月12日（月）～17日（土）
場所：韓国光州市
http://sediment.jp/08related/2017WPSM.html

○IGCP630 Annual Symposium (2017) “Permian-Triassic climatic & environmental extremes and biotic responses”
6月14日（水）～16日（金）
場所：東北大学
https://amarys-jtb.jp/icgp630/

○地質学史懇話会
6月17日（土）13:00～17:00
場所：北とぴあ 8階804号室
平山　廉「カメの始まりから2億年の歴史を語る」
山田俊弘「17世紀西欧における「ジオコスモス」の変容：ステノの『サメの頭部の解剖』（1667）350周年を記念して」

★中部支部 2017年支部年会
6月17日（土）10：00～
会場：糸魚川市フォッサマグナミュージアム
http://www.geosociety.jp/outline/content0019.html

○2017年度資源地質学会年会
6月21日（水）～23日（金）
会場：東京大学 本郷キャンパス 小柴ホール
＊国際シンポジウム「The Japanese Porphyry Copper Enigma」
21日（水）13:00～18:00
//www.resource-geology.jp/events/#p221

7月　July

（共）第54回アイソトープ・放射線研究発表会
7月5日（水）～7日（金）
場所：東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生）
http://www.jrias.or.jp/

○ International Conference on Geology, Mining, Mineral and Groundwater Resources of the Sub-Saharan Africa: Opportunities and Challenges Ahead
7月11日（火）～13日（木）
場所：ザンビア共和国，リビングストン
http://mines.unza.zm/conference/

（後）「青少年のための科学の祭典」2017全国大会
7月29日（土）～30日（日）
会場：科学技術館（千代田区北の丸公園2-1）
http://www.kagakunosaiten.jp/

8月　August

（後）科学教育研究協議会第64回全国研究大会
8月7日（月）～9日（水）
場所：広島なぎさ中学高等学校
http://kakyokyo.main.jp/

★関東支部：地学教育・アウトリーチ巡検
「火山灰を追跡する-浅間火山の噴出物と噴火史」
8月7日（月）～8日（火）1泊2日
講師：大石雅之（立正大学地球環境科学部）
参加申込：7月10日（月）締切
http://www.geosociety.jp/faq/content0715.html#kanto

★関東支部：清澄フィールドキャンプ
8月21日（月）～26日（日）5泊6日
場所：東京大学千葉演習林（千葉県鴨川市清澄）
費用：30000円（学生），40000円（社会人）程度を予定
参加申込：7月7日（金）締切
http://kanto.geosociety.jp/

○第10回白亜紀国際シンポジウム（10th ISC 2017）
8月21日（月）～24日（木）
場所：オーストリア・ウィーン UZA Ⅱ
https://10cretsymp.univie.ac.at/home/

○第71回地学団体研究会総会（旭川）
8月25日（金）～27日（日）
場所：北海道旭川市大雪クリスタルホール・神楽市民交流センター
https://sites.google.com/view/soukai2017

9月　September

（共）2017年度日本地球化学会第64回年会
9月13日（水）～15日（金）
会場：東京工業大学・大岡山キャンパス
講演申込：7月13日（木）14時締切.
http://www.geochem.jp/meeting/index.html

○第34回歴史地震研究会（つくば大会）
9月15日（金）～17日（日）
場所：つくばイノベーションプラザ
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

★日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）
9月16日（土）～18日（月）
場所：愛媛大学城北キャンパス（松山市文京）
講演申込締切：7月5日（水）18時

（共）第61回粘土科学討論会
9月25日（月）～27日（水）
会場：富山大学 五福キャンパス共通教育棟
http://www.cssj2.org/

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第6回国際シンポジウム「Western Tethys meets Eastern Tethys」
9月29日（金）～30日（土）
ポスト巡検：10月1日（日）～5日（木）
場所：ポーランド，クラクフ市
http://igcp589.cags.ac.cn/

10月　October

（後）第4回Slope tectonics 2017
10月14日（土）～18日（水）
場所：京都大学宇治キャンパス黄檗プラザ
http://www.slope.dpri.kyoto-u.ac.jp/SlopeTectonics2017/st2017.html

（共）第15回国際放散虫研究集会（15th InterRad）
10月23日（月）～27日（金）（研究集会）
20日（金）～22日（日）（プレ巡検）
22日（日）サイエンスカフェ
28日（土）～31日（火）（ポスト巡検）
場所：新潟大学など
http://interrad2017.random-walk.org/

○IGCP608 Asia-Pacific Cretaceous Ecosystems第5回国際研究集会
10月26日（木）～27日（金）
場所：韓国済州島
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

11月　November

○16th Gondwana International Conference/ IAGR 2017 Annual Convention/ 14th International Conference on Gondwana to Asia
タイ・バンコク，11月12日（日）～17日（金）
プレ巡検：10日（金）～12日（日），ミド巡検：15日（水），ポスト巡検:18日（土）～20日（月）
登録／発表要旨締切：7月31日（月）
http://www.dmr.go.th

○第71回日本人類学会大会
11月3日（金）～5日（日）
会場：東京大学本郷キャンパス
講演申込締切：8月21日（月）
http://anthrop-meeting.sakura.ne.jp/

TOPIC

～2018年日本地質学会創立125周年を記念して～

トリビア学史　9　1893（明治26）年吾妻山爆発にともなう地質学者の殉難

矢島道子（日本大学文理学部）

はじめに

火山はときに大爆発をし，人間の社会生活に甚大な被害を与えることがある．1893年には会津の吾妻山が爆発し，地質学者が殉難した．地質学が日本に芽生えてから初めて起きた事件だったので，東京地学協会報告や鉱山雑誌等によく記録された．佐藤（1985）によく再録されているが，当時の新聞等を入手したので，社会的な影響についても報告したい．

殉難の概要

1893年5月，会津の吾妻山が活動を始めた．翌月，地質調査所所員の三浦宗次郎（技師）は西山惣吉（技手）を随行して現地に入った．6月7日，二人が火口付近を調査中，大爆発が起きた．「三浦負傷，西山行方不明」の第一報に所員たちは，「三浦氏すら負傷する場合　西山氏が無難なる謂れはあらじ，恐らく悲惨なる死を遂げたるならん」（『東京朝日新聞』1893年6月15日）と心配しているところに，果たして両名死亡の報が届いた．火山弾の直撃を浴びたのだ．新聞が連日報じた．

三浦宗次郎

三浦宗次郎（1862 - 1893）は群馬県沼田の生まれで，1884（明治17）年，東京大学理学部地質学科を卒業した．そして静岡県師範学校や佐賀県などで教員を務めた後，1887年地質調査所に移った．卒業論文は『土佐東部の地質概要』で，そこに“radiolarian quartzite”という記述がある（永井・白木，2011）．日本で最初の放散虫硅岩の記載である．地質調査所に入所してからは20万分の1地質図幅「豊橋」「名古屋」「足助」「男鹿島」「秋田」「本庄」などを精力的に作成した．死後出版になったものは「吾妻山破裂調査概況」（三浦，1893a），「鳥海山登山の記」（三浦，1893b），「荒川銅山」（三浦，1893c）などがある．

西山惣吉

西山惣吉は1855（安政2）年生まれで，履歴書にはただ「東京府平民」と記されている（佐藤，1985）．初めは東京大学で雇われ，大学の失火事件のときの大活躍が認められ，1880（明治13）年に地質調査所の職階では「定夫」に採用された．1881年には「定夫世話方」に昇進した．

雇，外国教師出張のときは常に之に随ひ行き同氏［惣吉］に非ざれば殆んと事を弁せすと云ふ有様なりしかは習ふより慣れよの譬へ見覚聞覚へ其道に通せしを以て遂に雇に登用されたり（著者不詳，1893）

ナウマンには，1875（明治8）年の最初のフォッサマグナ行きから，従者として常に同行した．特に1882（明治15）年の白根山の調査では大活躍をした．ナウマンは火口での試料採取を試みたが，うまくいかず，西山惣吉の出番となった．

当時噴烟猛烈なりしにも拘はらず噴口及び熱湯の温度を検測せんため絶壁を攀（よ）ぢ断崖を渡り辛うじて実験を終わりし後更に噴口壁を繞（めぐ）りて対崖に至り前に経過せし所を望みたるに峭壁裂け岩角聳え今にも破裂墜落せんとする有様なれば同行の人々はいづれも戦慄したり（著者不詳，1893）．

ナウマンは資料を採集することが出来，帰独後，白根山の論文を書いた（Naumann ,1893）．西山惣吉はナウマンの帰独後，原田豊吉，そして三浦宗次郎の調査につきあった．

殉職した二人を悼んで肖像画が描かれた．故三浦を洋画家の浅井忠が描き，故西山を描いたのは原田豊吉の弟，原田直次郎だった．この肖像画は帝室博物館をへて，いま東京国立博物館に収蔵されているという（佐藤，1985）．

写真　三浦宗次郎（伊藤，1985）より．西山惣吉の写真は見つかっていない．

社会への影響

科学者の殉職が驚かれた時代で，報せは皇室にも達した．「破裂の報一たび叡聞（えいぶん）に達するや爾来（じらい）深く宸襟（しんきん）を悩ませられ」（『東京朝日新聞』明治25年6月15日）た天皇は，三浦技師の最後の報告書を「最（いと）細（こま）かに　叡覧（えいらん）あらせられ侍従方に向て斯（かゝ）る異変あるごとに　朕へ奏聞せるは総て事後の報告のみなるが学術上の研究に依り山岳の破裂若しくは地震等の如き未発の前に於て樹木の枯疲禽獣魚虫の逃避等何か前兆あるものにはあらずや」（『東京朝日新聞』明治25年6月15日）と仰せられ，侍従長らは返答に窮し，地質調査所に質問に行ったという．

事件は歌舞伎「善悪両面吾妻山」を生み（『東京朝日新聞』明治25年6月30日），志賀重昂も「日本の武人，戦場に斃れるる者，古往今来何ぞ限らん，独り斯学のために倒れたる者」と『日本風景論』で特記した（志賀，1894）．

文献

佐藤博之，1985，明治26年吾妻山殉難記-百年史の一こま (3)，地質ニュース, no. 374，18-24.

志賀重昂（近藤信行校訂），1995，『日本風景論』，岩波文庫，395p.［原書初版は1894年政教社より発行］

永井ひろ美・白木敬一，2011，三浦宗次郎（1884）による放散虫珪岩の記載．名古屋大学博物館報告，no27，1-11.

Naumann, E., 1893a, Neue Beiträge zur Geologie und Geographie Japans, Damphausbrücheder japanischen Vulkane Shirane und Bandai. *Petermanns Mitteilungen ans Justus Perthes' Geographischer Anstalt, Ergänzungsheft*, 108, 1-15. ナウマン（山下　昇訳）,1966,「日本の火山, 白根と磐梯の蒸気噴火（日本の地質と地理への新貢献第1論文）」,『日本地質の探究―ナウマン論文集―』東海大学出版会，313-330.

三浦宗次郎，1893a，吾妻山破裂調査概況．地学雑誌，5巻，6号，267-272.

三浦宗次郎，1893b，鳥海山登山の記．地学雑誌，5巻，7号，324-327.

三浦宗次郎，1893c，荒川銅山．地学雑誌，5巻，8号，369-375.

著者不詳, 1893，雑纂-西山技手ノ履歴．鉱山雑誌，3巻，124.

5月10日は 地質の日

2017年の「地質の日（5/10）」に関連して開催された学会の催しをご紹介します。

2017年　地質の日記念イベント開催報告

街中ジオ散歩in Tokyo「国分寺崖線と玉川上水」

今春，日本地質学会は日本応用地質学会の共同主催，国分寺市・小平市・東京都地質調査業協会の後援で，地質の日記念行事として標記の徒歩見学会（研修会）を開催しました．

今回は国分寺崖線，玉川上水近傍に見られる地質と地形をテーマに実施したものです．

日時：2017年5月14日（日）
参加者数：28名
コース：9:45西武線鷹の台駅集合→ふれあい下水道館→真姿の池湧水群→武蔵国分寺跡資料館→東山道武蔵路跡→姿見の池16:30解散
講師：山崎晴雄氏（首都大学東京名誉教授）
中山俊雄氏（東京土木技術支援・人材育成センター）
幹事：杉田律子，加藤潔，小松原純子，細矢卓志（地質学会），原弘，緒方信一，橋本智雄（応用地質学会）

街中ジオ散歩の状況

前日は大雨でしたが，当日はくもり空で，ここち良い風の中，楽しく出発しました．午前中は，玉川上水の壁面露頭とふれあい下水道館を見学しました．ふれあい下水道館では，玉川上水に関するビデオ上映と，らせん状階段に展示してある剥ぎ取り試料（当館建設時の地質断面）を観察しました．午後は国分寺駅を出発し．真姿の池湧水群で湧水の状況を見学し，武蔵国分寺跡資料館では，国分寺の歴史について勉強しました．東山道武蔵路跡を歩きながら古道に思いを馳せ，最後に姿見の池で鎌倉時代に生じたと言われる悲劇の伝説を学びました．

参加者の方々の声（アンケート結果）

・今回のように，フィールドワークのなかで実際の標本を見，また疑問点を質問しながら地質について教えていただけるのは大変貴重な機会で，参加前の期待通りのイベントでした．
・玉川上水を見てみたかったので，とても楽しく，学びの多いイベントでした．
・天気もちょうど良く，地形のことを専門家の方に伺えてよかった．
・玉川上水の歴史や役わりについて丁寧に解説していただきよく理解できた．
・自分としては，地質にそれほど詳しくないので江戸や律令国家の文化との関わりが多い今回のプログラムは楽しめた．

以上盛り沢山の見学会でしたが，課題としては

姿見の池（STOP6）での記念写真

ジオ散歩徒歩ルート

1）参加者全員に案内者の説明が聞こえるような配慮（班ごとの移動になるので難しい場合があります．）
2）40名近くの大勢が狭い道を歩く際の，交通，一般通行人へのきめ細かい配慮
3）アップダウンの多さ等，徒歩ルートの地形情報の事前提供．
4）今回は子供・学生の参加者の応募が少なく，募集の方法についても再検討する必要があります．

以上が，挙げられます．来年はこれらの課題を踏まえてもっと楽しく興味深く安全な見学会にして行きたいと思っています．

この研修会の開催にあたって，山崎晴雄氏，中山俊雄氏，本行事をバックアップして頂いた国分寺市・小平市教育委員会の方々には大変お世話になりました．最後になりましたが改めて心から感謝申し上げます．

（文責：**細矢卓志・杉田律子・原　弘**）

左から，STOP1の説明状況（玉川上水）．STOP2（ふれあい下水道館）

地学教育のページ

小さなEarth Scientistのつどい
～第15回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～
参加校募集

日本地質学会第124年学術大会の関連普及行事として，今年も上記発表会への参加校を募集します．詳細は本誌予告記事をご覧ください．地学，理科クラブの研究活動の発表，そのほか，この１年間に授業の中で行った活動の報告，児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動，研究内容であれば構いませんので，ぜひ応募してください．FAXで参加申込をする場合は，以下の申込書をお使いください．メールの場合，形式は問いませんので同様の内容を記して＜main@geosociety.jp＞までお送りください．申し込みの際の参加生徒数，発表タイトル，発表概要は予定でも結構です．参加していただいた生徒さんには参加証とともに，優秀な発表には「優秀賞」が贈られます．

日本地質学会地学教育委員会（担当：三次）

申込締切　2017年７月14日（金）

日本地質学会地学教育委員会　行き　（Fax　03-5823-1156）

小さなEarth Scientistのつどい　～第15回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～
参　加　申　込　書

学校名※ （クラブ名）	
学校長名	
担当教員名※	
研究者名（連記）	（内，発表会参加生徒数　　名）
タイトル（仮題でも可） ※	
発表概要 （可能であれば簡単に）	
担当者連絡先※	学校所在地　〒　　－ 電話　　，Fax メールアドレス
机の使用※	する　・　しない　（どちらかに○をつける）
備考・連絡事項	

※については必ず記入してください．

☆関東支部

報告

地質技術伝承講演会および 2016年度関東支部総会報告

2017年4月15日（土）東京都北区赤羽の赤羽会館において，地質技術伝承講演会および関東支部功労賞表彰式，2017年度支部総会を行いました．総会に先立って関東地質調査業協会との共催で行われた地質技術伝承講演会は，講師に(株)東建ジオテック本店技術部課長の岡野英樹氏を迎え「環境地質調査のはなし－現場手法と解析－」という演題で講演をしていただきました．今回は47名の参加者がありました．東京都市場移転問題などでも注目を浴びている地歴や有害物質調査について，土壌汚染対策法に基づく調査，科学的な調査，非ルーチン的調査と段階を踏んで，具体的事例に基づいて詳細な解説をして頂きました．安定型処分場の浸透水中に検出されたヒ素の原因調査など，具体例をもとにしたお話しは大変わかりやすく，受講者の方々の脳裏に焼き付いたのではないかと思います．

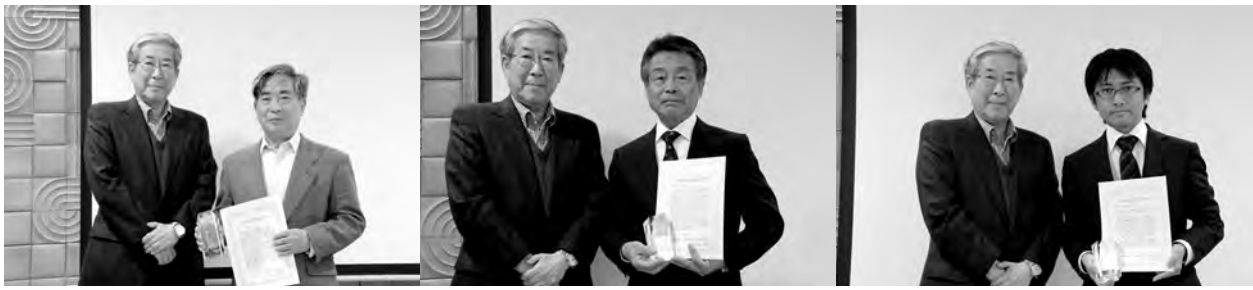
続いて行われた2016年度関東支部功労賞表彰式では，遠藤毅氏，門田真人氏と栃木県立博物館が表彰されました．遠藤氏は高度経済成長下の東京都において地盤沈下対策に尽力されたこと，東京の地下地質の解明等に貢献されたことが評価されました．門田氏は長年伊豆・丹沢地域のサンゴやオウムガイ等の化石の研究，教育普及に携わり，県の石（化石）の推薦にも関わったことが評価されました．栃木県立博物館は，開館以来地質関係の特別展，テーマ展を継続的に開催し，鯨類化石のクリーニング展示を行うなど地元への地質学の普及に貢献していることが評価されました．

総会（出席者31名，委任状108名で成立）では2016年度活動報告・決算報告，2017年度活動案・予算案が審議され，いずれも拍手で承認されました．昨年は東京・桜上水大会の年でしたが，新たなスタートの年と位置付けて支部活動を展開して参りますので，皆様よろしくお願いいたします．

（幹事長　**笠間友博**）

地質技術伝承講演会の様子

演者の岡野英樹氏（㈱東建ジオテック）



関東支部功労賞表彰　［左から］遠藤　毅氏，門田真人氏，栃木県立博物館，自然課主任河野重範氏．ともに左側は有馬　眞 関東支部長．

関東支部：その他のお知らせ

○地学教育・アウトリーチ巡検「火山灰を追跡する－浅間火山の噴出物と噴火史」参加者募集中

2017年8月7日（月）～8日（火）1泊2日（マイクロバス使用）
対象：教育関係者および地学に興味のある一般の方（地質学会会員でなくても可）
申込締切：7月10日（月）

○ 2017年度 清澄フィールドキャンプ参加者募集

期間：2017年8月21日（月）～8月26日（日）　5泊6日
場所：東京大学千葉演習林（千葉県鴨川市清澄）
応募締切日：7月7日（金）

詳しくは，
http://kanto.geosociety.jp/

写真１：ゴンドワナからアジア国際シンポジウムでの集合写真

ゴンドワナからアジア国際シンポジウム参加報告

筑波大学 生命環境科学研究科地球（進化）科学専攻
小泉達也（博士後期課程3年）・
高村悠介（博士前期課程2年）・
高橋一輝（学部4年）

はじめに

2016年11月18日～20日にかけて南インド・Trivandrumで開催された「ゴンドワナからアジア国際シンポジウム」と，21日～22日にかけて行われた学会主催の野外巡検（南インド・Trivandrum周辺地域）に参加したので，そこで見聞きしたこと，体験したことなどについて報告する．学会に関する詳しい内容については，吉田勝・角替敏昭両先生の報告（2017年1月号）を参照していただきたい．

学会にて

筆者らは，11月18日に学会に先立って開催されたAuthor Workshopに参加した．ここでは論文の構成や査読，出版，インパクトファクターなどについての講演が行われ，研究成果を発信することに関して多くのことを学ぶことができた．この日の夜に開かれたアイスブレーカーでは，以前筑波大学に留学されていた方々や昨年の学会で知り合った学生達と再会し，カレーをいただきながら話に花を咲かせるとともに，多くの研究者達と新たに知り合うことができた．

19，20日には学会が開かれ，ゴンドワナ地域についての研究発表と活発な議論が行われた．岩石学や年代学を中心に，地球物理学や古生物学にいたるまでの幅広い分野からの研究発表があったのが印象的だった．また，年齢の近い院生による口頭発表もあり，自身の研究の励みになるとともに，口頭発表に挑戦するという新たな目標を見つけることができた．昼休みにはポスターセッションが開かれ，ポスター発表を行った．拙い英語での発表は勇気がいるものであったが，短時間ながら研究者達と有意義な議論をすることができ，多くの助言を頂けた．ポスターセッションを通して，最優秀ポスター賞を受賞した筑波大学の高村悠介を筆頭に，ケララ大学（インド）の学生2名と延世大学（韓国）の学生1名の計4名がポスター賞に選出された．昨年に引き続き，筑波大学の学生がポスター賞を受賞できたことはたいへん嬉しいことであり，来年度のゴンドワナからアジア国際シンポジウムに参加する学生にも大きな刺激になるだろう．

19日の夜にはバンケットが開かれ，アイスブレーカーと同様に楽しい時を過ごした．特に，ゴンドワナからアジア国際シンポジウムで毎年恒例の「各国から来た人がそれぞれの国の歌を披露する」というイベントは大いに盛り上がり，日本人勢も全員で「上を向いて歩こう」を合唱した．

野外巡検

11月21日から22日にかけて行われた南インドのトリヴァンドラム岩体での巡検に参加し，この地域に産する主な岩相のコンダライトや珪長質片麻岩，チャーノッカイトを観察した．まず初めに，南インドやスリランカ，マダガスカルなどで特徴的に産する菫青石ザクロ石片麻岩（コンダライト）の見られる大規模な採石場（Koliakode）を訪れた．この露頭に産するコンダライトは，ザクロ石，菫青石，珪線石，スピネルなどの鉱物を含み，肉眼で青色の粗粒な菫青石をハッキリと確認することができた．周囲の岩石はコンダライトと同傾斜の面構造が発達するザクロ石を含む珪長質岩で，その成因についてはコンダライトの部分溶融によるものと，後のステージに起こった貫入による考え，もしくはその両方の可能性について議論が続いている．ここでは，それらの成因を示唆する露頭の観察と年代や岩石学的特徴の説明を受けた．

次にKakkodu採石場へ向かった．ここで観察できる主要な岩相はザクロ石黒雲母片麻岩とレプティナイトであり，ザクロ石黒雲母片麻岩中には褐色～濃緑色のパッチ状のチャーノッカイトが形成されている．チャーノッカイト中の斜方輝石は後退変成作用によって分解されており，肉眼では確認できなかった．この露頭ではザクロ石黒雲母片麻岩とチャーノッカイトの両者の関係とパッチ状チャーノッカイトの成因を中心に議論がなされた．両者の境界は漸移的に変化し，パッチ状チャーノッカイト中にだけ面構造が見られないことなどから，チャーノッカイトの成因はCO_2流体が片麻岩に影響を与えて形成したと考えられている．しかしながら，そのCO_2流体の挙動や起源，H_2O流体の存在，チャーノッカイトの成因についての疑問点が多く残るため，参加者全員で議論を交わし，私たちも疑問に思ったことを積極的に質問した．

翌日2日目の午前中にトリヴァンドラム岩体の北部に位置するKottavattom採石場を訪れた．この露頭からKakkudu採石場でみられたものと同様のパッチ状チャーノッカイトが報告されている．主要な岩相はザクロ石黒雲母片麻岩で，その中に斜方

左から写真２：IAGRポスター賞の表彰式．写真３：インド洋を背景にして撮った３人の写真（左から高橋，小泉，高村）

輝石を含むパッチ状チャーノッカイトがネットワーク状に発達している様子が観察できた．ここでは先日に引き続き，チャーノッカイトの成因について議論が行われた．

昼頃にはエイヨアという町の近くで予定になかった露頭に立ち寄ることができた．この露頭には粗粒な長石のブ―ディンを含むザクロ石黒雲母片麻岩が露出している．説明によると，この岩石の原岩は古原生代の火山弧でのマグマ混合により形成された花崗斑岩で，原生代 - 顕生代境界に変成作用を被ったと考えられるという，時間の都合上15分程度の滞在であったが，非常に長い時間スケールでのテクトニクスについて有意義な議論をすることができた．

最後の露頭（Kovalam）ではこれまで見てきたチャーノッカイトとは異なる均質な大岩体のチャーノッカイトを観察した．このチャーノッカイトには閃緑岩質のエンクレーブが包有されている．その成因として，古原生代に火山弧域でのマグマ混合によって原岩が形成されたあとにそれが高温の変成作用により脱水しチャーノッカイトが形成されたという説明を受けた．ここのチャーノッカイトの岩石学的・年代学的特徴はインド南端のNagercoil 岩体に似ているほか，同様のブロックがTrivandrum 岩体の各地に分布しており，おそらくは新原生代の沈み込みの際に取り込まれた地殻ブロックではないか，というようなテクトニクスや岩体の関連性に関する議論がなされていた．この後Kovalamビーチ近くの岩場へ行き，チャーノッカイトとインド洋を臨みながら解散となった．

インドで体験したこと

せっかくの機会なので，私たちがインドで体験したことについてお伝えしたい．インドで最も驚いたことは，日本とは全く異なる道路状況についてである．南インドでは，信号機が少なく，追い越しは当たり前，常にクラクションが鳴り響き，歩行者は交通量の多い道を平気で横断してくる．私たちは，オートリキシャー（3輪車タクシー）に乗って観光する機会があったため，そのような光景を間近で見て体験することができたが，常に事故に巻き込まれそうな気がして不安ばかりであった．話は変わるが，インドの食についてもやはり驚きを隠せなかった．日本では考えられないことであるが，朝昼晩，学会中のアイスブレーカーやバンケットを含めて毎食カレーの日々を過ごし，20-30種類ほどのカレーを堪能した．また，巡検中の休憩スポットでチャイと呼ばれる非常に甘い紅茶を何度もいただけたこともインドの食の文化に触れた良い思い出である．巡検2日目の早朝にヒンドゥー教の寺院に訪れる機会があった．裸足になり，上半身の服を脱いで寺院に入り．早朝から大勢の人達と一緒にガネーシャなどの神様に祈りを捧げることができ，観光気分を味わえた．22日の夕方に巡検が終了し，同日の帰国便の出発まで6時間ほど時間があったため，空港近くに位置するコバラムビーチに訪れた．ここは100ほどの小さなお土産屋さんとレストランが海沿いに並ぶ観光名所として知られており，海外からの観光客だけでなく，インド人の家族連れや修学旅行中の中高生達も海辺で遊んだり泳いだりショッピングをしたりして楽しんでいた．そのような光景ときれいなインド洋を眺めながら周辺を散策し，レストランでインドでの最後の食事をいただいた後，空港に向かった．

まとめ

ゴンドワナからアジア国際シンポジウムに参加することができ大変満足している．短い期間ではあったが，今後の研究に役立てられる新たな知識を得ることができた．また，海外の学生や著名な研究者と知り合うことで研究活動に対する刺激を受けたこと，インドの文化に初めて触れることができたことなど，素晴らしい経験を積むことができた．また野外巡検では，日本では見られない岩石を素晴らしい露頭で観察し，私たちが扱ったことのない種類の岩石の成因や岩石学的特徴を露頭で観察しながら学べたことが何よりの収穫である．この経験を今後の研究やフィールドワークに活かしていきたい．最後に，ゴンドワナからアジア国際シンポジウムに関わった皆様，学会と野外巡検を主催していただいたケララ大学の皆様にこの場を借りて深く感謝を申し上げる．

個人の感想

小泉達也：私は今回でゴンドワナからアジア国際シンポジウムに3度目の出席となったため，研究に関する新たな知見を得るだけでなく以前に知り合った多くの研究者や学生たちと再会することができ，想像以上に楽しく貴重な時間を過ごすことができた．野外巡検の2日間は，学ぶことが非常に多く，素晴らしい露頭で議論が行われたこともあって，あっという間に過ぎ去ってしまった．

高村悠介：研究についての議論を通じ，各国の人と交流できたことが何より嬉しく，研究活動に対する大きな励みとなった．次の機会に彼らと再会するのが楽しみである．また今回初めてインドを訪れたが，短い期間ながら現地の文化を垣間見ることができ，文化という観点からも大きな刺激となった．

高橋一輝：私にとって海外に行くのは今回が初めてであり，ほとんど気を休めることができなかった．しかしながら，インドの文化を体験するとともに，車社会であるインドの日常生活の様子の一端を知ることができたためとても貴重な経験となった．巡検では大規模な採石場に圧倒されたが，柘榴石や菫青石，モナズ石といった美しい鉱物を観察し，採集することができたこと，グラニュライト相の変成岩の露頭を初めて見ることができたことにとても感動した．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

16nd204l@vc.ibaraki.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
manto.yamada@gmail.com　山田眞嵩（首都大）
smuto@eps.s.u-tokyo.ac.jp　武藤　俊（東京大）
716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，２冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生４割引，正会員２割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ２割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス—その意義と問題点—．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒350円
第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年６月刊，会員頒価3,100円，〒300円
第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年４月刊，会員頒価3,100円，〒350円
第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年４月刊，会員頒価2,000円，〒350円
第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 45 号　~~シーケンス層序学—新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，~~**（売り切れました）**
第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年９月刊，会員頒価 1,900円，〒300円
第 47 号　日高地殻—マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年４月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan—　岡田博有ほか編，188pp.，1997年６月刊，会員頒価 2,100円，〒350円
第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年３月刊，会員頒価 2,500円，〒350円
第 50 号　構造地質　特別号—21世紀の構造地質学にむけて—．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年７月刊，会員頒価2,500円，〒350円
第 51 号　地震と地盤災害—1995年兵庫県南部地震の教訓—．岡田博有ほか編，162pp.，1998年３月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年９月刊，会員頒価3,000円，〒350円
第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒360円
第 54 号　タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，~~**（売り切れました）**
第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年３月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年９月刊，会員頒価2,800円，〒350円
第 58 号　地震イベント堆積物—深海底から陸上までのコネクション—藤原　治ほか編，169pp.，2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円
第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年５月刊，会員頒価2,400円，〒350円

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—　1995年４月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo－Pollutions 1997年２月発行　会員頒価200円（非会員300円）
大地をめぐる水—水環境と地質環境—　2001年５月発行　会員頒価300円（非会員400円）
日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員頒価500円（非会員600円）

地質リーフレットたんけんシリーズ**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**
１．箱根火山たんけんマップ—今、生きている火山　2007年５月発行　会員頒価300円
２．屋久島地質たんけんマップ—洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい—　2009年３月発行　会員頒価300円
３．城ヶ島たんけんマップ—深海から生まれた城ヶ島—　2010年９月発行　会員頒価300円
４．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん—樹海にかくされた溶岩の不思議—　2014年３月発行　会員頒価300円
５．長瀞たんけんマップ—荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう—　2016年２月発行　会員頒価300円

地質リーフレットシリーズ
１．箱根火山　2007年７月発行　会員価格1,000円**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）１枚200円（非会員300円）

電子書籍シリーズ
地学を楽しく！：ジオパーク・ジオツアー・地学オリンピック　　2013年12月発行　［Kindle版/PDF版］　定価1,380円

講演要旨集ほか
第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　　会員頒価2,800円，〒500円
第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円
第117年見学旅行案内書（2010年富山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　　会員頒価2,500円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知，2007年札幌，見学旅行案内書は，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

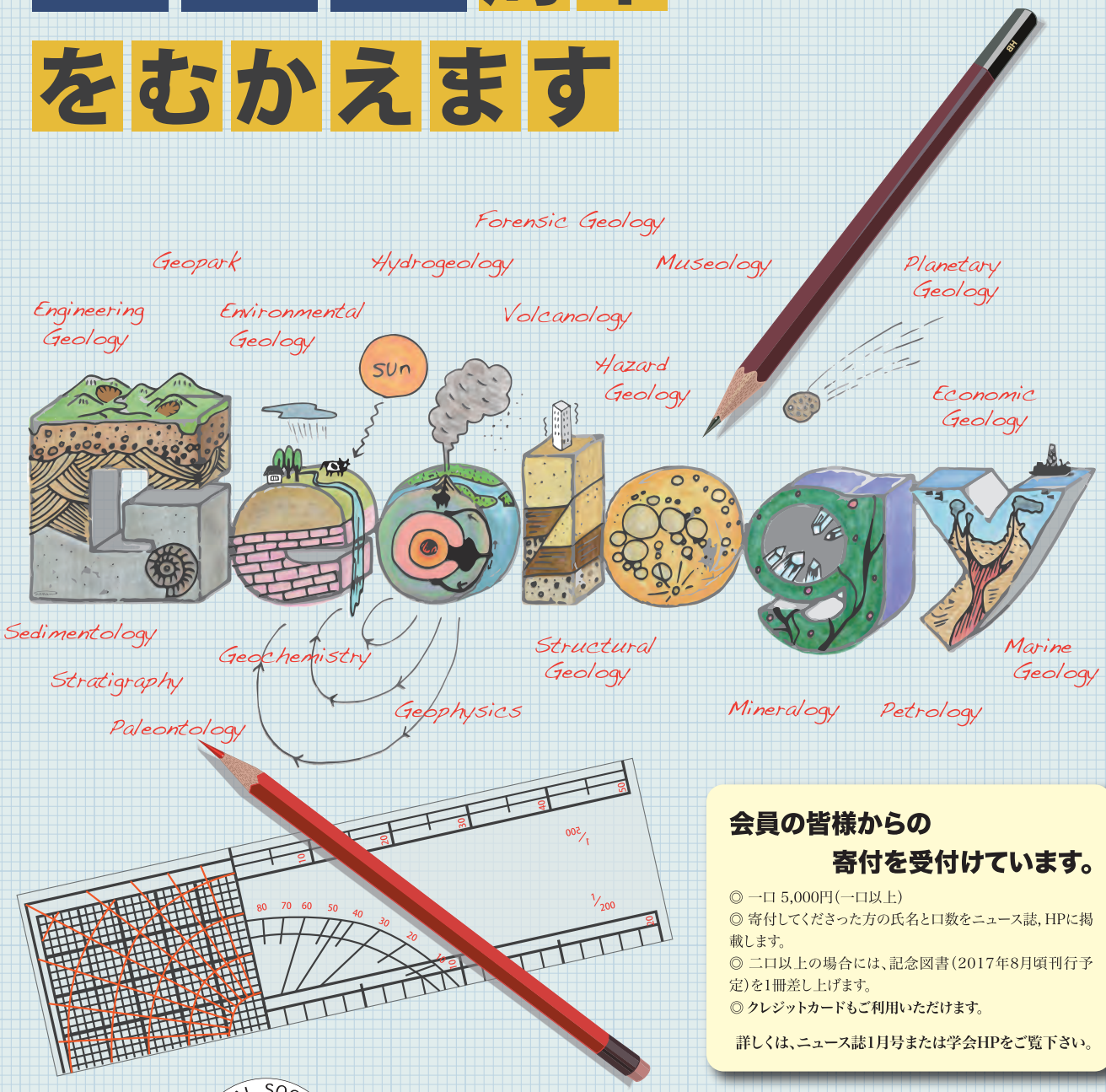
フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価１冊500円．

2018年

日本地質学会は

125周年

をむかえます



会員の皆様からの寄付を受付けています。

◎ 一口 5,000円(一口以上)
◎ 寄付してくださった方の氏名と口数をニュース誌, HPに掲載します。
◎ 二口以上の場合には、記念図書(2017年8月頃刊行予定)を1冊差し上げます。
◎ クレジットカードもご利用いただけます。

詳しくは、ニュース誌1月号または学会HPをご覧下さい。

一般社団法人 日本地質学会
e-mail : main@geosociety.jp　URL : http://www.geosociety.jp

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ
会費(※1)年額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．
※2:学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教員の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正会員　(☐ 学部学生割引　・　☐ 院生割引)
氏名(ふりがな)　Name in Japanese	ローマ字表記　family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex:☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:
_____学校 High school_____年卒業 Year completed
_____大学 University　_____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み)Year completed
修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed
博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　-　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　-　)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone:　ファックス Fax:

e-mail Address:　@
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先(代表)の問い合わせ専用　e-mail Address　は記入しないでください．

連絡先 Correspondence:　☐ 自宅　Home　☐ 所属機関　Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
☐ 所属先住所　☐所属先電話・FAX番号　☐自宅住所　☐自宅電話・FAX番号　☐e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印
Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき，学会費の割引申請をいたします．

上記本学の学生につき，　☐ **学部学生**　・　☐ **定収のない院生(研究生)**　〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします．

指導教員　所属:　氏名:　印

専門部会:現在，下記の15の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質
10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩　8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質　15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学
18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質　22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学
26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育　29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　年　月　日)	＊入金(　年　月　日)　振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)	＊送本(　巻　号)

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2017前期号）発行!

申込・問い合わせ：**一般社団法人　日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp